

30P1-am007

名城大学薬学部における早期体験学習の導入と評価

○飯田 耕太郎¹, 田口 忠緒¹, 伊藤 達雄¹, 西田 幹夫¹, 吉田 勉¹, 原田 健一¹

(¹名城大薬)

【背景】早期体験学習は入学後の早い時期に病院や薬局などの医療施設を見学体験することにより、広い視野から専門職業人の医療と社会における役割と使命を知り患者を中心にした医療や福祉を早い段階で身近に感じ取ることを狙いとして医療系学部の導入教育に取り入れられている。名城大学薬学部では、薬学生一人一人が薬学部で学ぶ目標を明確に持てるように学外に出向き、薬剤師が活躍する医療現場を見学する早期体験学習を導入している。

【目的】本研究の目的は、早期体験学習の導入が、新入生における薬学に対するモチベーションを高めることに、どの程度寄与したかを評価するとともに、今後さらに充実した早期体験学習に改善するための評価をすることにある。

【方法】学生の自己評価アンケートは、「早期体験学習の導入」についての質問と「見学時の問題点・改善点」についての質問を設定し、いずれも5段階の回答を選択肢とした。体験学習の発表会終了後に参加した全学生にアンケート調査した。

【結果・考察】早期体験学習の導入について、全体を通して病院や薬局などの医療施設を見学体験することを、多くの学生が高く評価していることが分かった。例えば「見学により薬学学習のモチベーションが高まったか」という設問に対して80%以上の学生が肯定的であった。早期体験学習の導入により、薬剤師の業務や役割を理解し、患者中心の医療を身近に感じ取ることにより、薬剤師を目指すモチベーションの高揚に繋がっていることをアンケート調査から汲み取ることができた。今後は、見学前後の準備学習とまとめ学習において見学グループごとに学生主体のSGD(SGL)を行い、新しい課題について自ら学ぶという能動的な学習態度を早くから身につけさせたい。